

7. 自分の中のふるさとを想う「忘ねっちゃ」出版

グループ名 方言を語り残そう会
代表者 金岡 律子

① 活動の目的

- ・方言を語り残そう会は先祖からの無形の財産である方言を地域に普及し、世代間交流や次世代に語り残すこと目的として活動しています。

東日本大震災直後に、全てを失った被災者の皆さんに唯一残った生まれた土地の言葉を通して、当会ができる故郷の同じ方言で寄り添うことで、少しでも元気を取り戻していただけたらとボランティアを始めました。仮設住宅を離れてそれぞれ新天地に住まいを移しても、今までのつながりは途切れることはなく、ボランティアを通して多くのご支援を受けた感謝の気持ちを忘れる事のないように、皆さんとのたくさんの大切な思い出を忘れないように、そして、3. 11を風化させず後世に語り残していくために、震災の記録の一つとして残したいと思いました。

② 活動概要

- ・千年に一度と言われる未曾有の災害から7年の歳月が経ちました。

東日本大震災で甚大な被害を受けた名取市。中でも巨大津波により閑上・下増田地区では多くの人命が奪われ、代々築いてきた街並みや風景、生業までも失ってしまいました。しかしながら、現在は復興に向けて少しづつ前進しています。

私たち『方言を語り残そう会』は『方言』という生まれた土地の言葉の力を信じ、震災直後から避難所に出向きました。仮設住宅に移ってからも皆さんの笑顔に惹かれて毎月欠かすことなく会いに行きました。名取市内の高齢者から寄せてもらった方言からできた名取方言かるたをはじめ民話や紙芝居、歌やゲームなどを行いました。昔話を聞きながら懐かしい故郷の方言での会話は何よりの癒しになったようです。徐々に笑顔が増えてきて、自ら閑上大漁祝い唄に合わせて踊る姿には、逆に私たちが励されました。災害を経験してより地域の絆が深まったことが伺えました。この7年間に被災された皆さまの心の声をたくさん聞くことが出来ました。家族を失った悲しみを抱えながらも、残された人たちが生きることの意味を考えながら時間をかけて支え合ってきました。これからも気持ちを強く持ち続けて生きて行けるように、持ち前の明るく元気な笑顔を絶やすことなく地域で助け合っていくことができるよう、ボランティアを通してお互いが生かし生かされた7年間の大切な想いを『忘ねっちゃ』に込めました。これからの頑張りの原動力となることを期待しております。

心のふるさとである方言は、いつまでも消えることなく時代を超えて語り継がれていいくことでしょう。そして、形としての故郷は変化しても、方言とはどこにいても『自分の中のふるさと』として残るものと信じています。

<活動場所>

・美田園第一仮設住宅 集会所

(3) 決算報告書

収 入	大同生命厚生事業団助成金	1 0 0 , 0 0 0 円
支 出	『忘ねっちゃ』 70 項 200 部	
	印刷・製本 70 項 200 部	1 0 8 , 0 0 0 円
	紙代	3 , 9 4 6 円
	コピ一代	3 , 3 8 0 円
	USB メモリー	1 , 3 8 2 円
	会場費	6 5 0 円
	校正費	3 0 , 0 0 0 円
	お礼	5 , 8 7 0 円
合 計		1 5 3 , 2 2 8 円

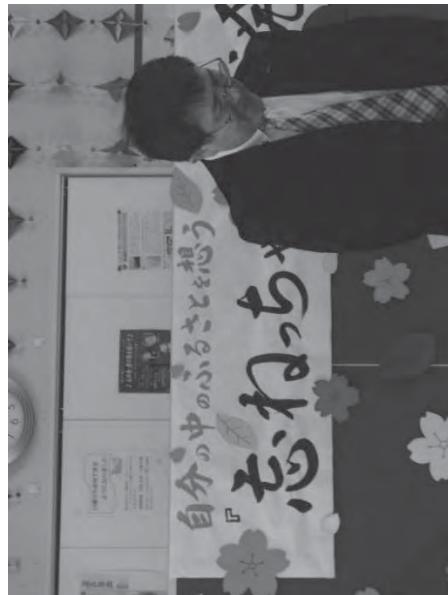
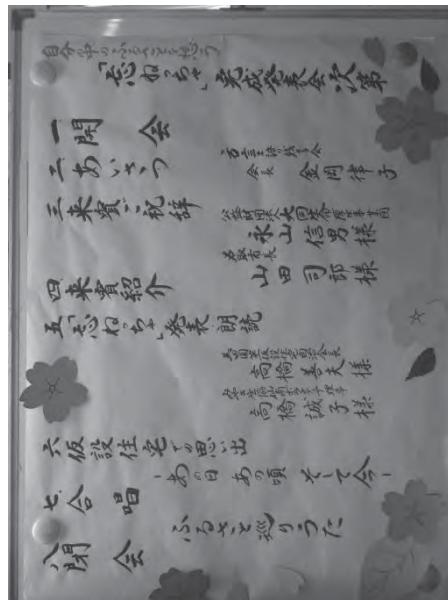
『忘ねっちや』完成発表会

平成30年3月24日（土） 宮城県名取市 美田園第一仮設住宅集会所にて

式次第

大同生命厚生事業団 永山信男様 ご祝辞

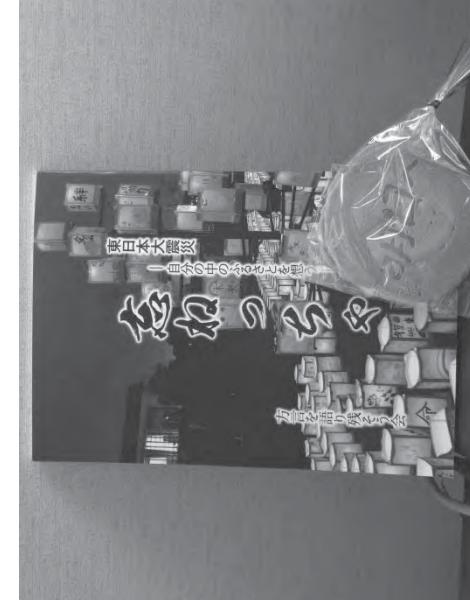
方言を語り残そう会会长 金岡律子挨拶



美田園第一仮設住宅自治会会长 高橋善夫様

みやぎ生協仙南ボランティア理事 高橋誠子様

『忘ねっちや』







*最後にみんなで『365日の紙飛行機』を歌つて紙飛行機を飛ばしました。紙飛行機は、真上に飛ばすと回りながら元の場所に戻ってきます。今はそれぞれ違う場所で暮らしていくても、新しく生まれ変わった故郷でまた会えるように、これまでのたくさんのご支援への感謝と明日への希望を紙飛行機に願いを込めました。